

第459空輸中隊 空自の部隊と交流、UH-1N乗員別れを告げる(1) 459 AS visits JASDF sister squadron for bilateral exchange, UH-1N crew bids farewell

July 9, 2025

By Staff Sgt. Tristan Truesdell
374th Airlift Wing Public Affairs

6月27日、第459空輸中隊の隊員が、航空自衛隊小松救難隊との二国間交流のため、小松基地を訪問した。

訪問中、第459空輸中隊の隊員は、小松救難隊の捜索救難任務について理解を深めるため、複数の施設を見学した。一方で第459空輸中隊は、C-12J ヒューロンとUH-1Nヒューイの任務能力を紹介した。第459空輸中隊は、定期的な訪問や文化・専門分野に関する二国間交流を通じて航空自衛隊部隊との強固な関係を築いており、米空軍と航空自衛隊の絆はこれまで以上に深まっている。こうした取り組みは、同盟国とパートナーとの連携を強化するうえで重要な役割を担っている。

(写真1) 6月27日、小松基地へ向かうUH-1Nヒューイから富士山を眺める、第459空輸中隊のパイロット、ブライアン・リード大尉。



1

(写真2) 小松基地にて、第459空輸飛行隊の隊員に部隊の能力について説明する航空自衛隊小松救難隊のパイロット。小松救難隊は、U-125AおよびUH-60Jブラックホークを運用し、山岳や海上での捜索救難活動を担っている。また、2024年1月に発生した能登半島地震の際にも災害に対応する空輸支援を行うなど、多様な災害任務に従事している。

第459空輸中隊は、太平洋地域における前方展開体制を維持しており、要人や優先度の高い人員・貨物の輸送を担い、米国の国家安全保障に関わる任務に即応する航空輸送支援を行っている。同中隊は、UH-1NとC-12J ヒューロンを運用し、常時、医療搬送、捜索救難、優先的輸送任務を遂行できる体制を整えている。



2

(写真3) 小松基地で行われた二国間交流で、小松救難隊パラレスキュー隊員の救難装備の実演を見学する第459空輸中隊の隊員。



3

第459空輸中隊 空自の部隊と交流、UH-1N乗員別れを告げる(2)
459 AS visits JASDF sister squadron for bilateral exchange, UH-1N crew bids farewell

July 9, 2025

By Staff Sgt. Tristan Truesdell
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真4) 6月27日、小松基地での二国間交流で、搭乗員が被るヘルメットを航空自衛隊小松救難隊の隊員に見せる第459空輸中隊フライト・エンジニアのケイリ・ロドリゲス上級空兵。こうした取り組みは、同盟国とパートナーとの連携強化につながる。



(写真5) 第459空輸中隊の隊員と交換したばかりのパッチを手にとって見る航空自衛隊員。部隊間で行われるパッチの交換は、友好と敬意の証とされており、二国間あるいは多国間における連携の象徴でもある。こうしたパッチ交換は、同盟国・パートナー間の絆の強化と相互運用性の向上に寄与している。



(写真6) 小松基地での二国間交流を終え、小松救難隊の隊員に手を振る第459空輸中隊フライト・エンジニアのケイリ・ロドリゲス上級空兵。

